

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691600031		
法人名	社会福祉法人 倣裏会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 あゆみの家		
所在地	京都府亀岡市篠町篠下中筋44-5		
自己評価作成日	令和2年7月24日	評価結果市町村受理日	令和3年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosovoCd=2691600031-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	令和2年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内に保育所があり子どもたちとの交流がある。日々の関わりの中で、入居者の言葉を記録に残し、入居者の思いを汲み取りケアに活かしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は利用者の思いを大切に考え、一人ひとりに寄り添い思いを引き出せるように関わり、個々のペースに合わせた暮らしとなるよう職員は話し合い連携良く支援しています。利用者や家族、職員を守るための感染症予防対策を行う上で現状家族の面会や地域の行事も中止となっていますが、毎月利用者の様子を伝える便りの他にメールや電話で様子を伝える等家族の安心に繋がるよう支援しています。複数のかかりつけ医との関係も良好でオンライン受診や緊急時の対応も臨機応変に対応してもらっています。また、。管理者は認知症の講師を担い指導を行い職員は知識を身に付け、職員の離職率も低く馴染みの関係を築きながら利用者や家族、地域の方々やと笑顔で接し地域に根差した事業所となるよう日々取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とのつながりを大切にします」の方針があり、日々近隣とのあいさつ、買い物や散歩など地域に出かける機会をもっている	事業所理念は職員間で話し合い決定し、入職時の研修で理念に込められた思いや行動指針を伝えています。また、日々のケアの中で利用者の気持ちを理解しその人の思いが叶えられるよう一人ひとりに応じたケアを提供するために毎月の会議の中で話し合い実践に繋げ、また振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺の地域の一員として自治会へ入会。回覧板を近隣に届けることは継続しているが、今年度は、コロナウイルスの流行により地域でのイベントが無く昨年度より付き合いができていない	自治会に入会し回覧板などで地域の情報を得ています。今般は地域の行事も中止となり地域との関わりは少なくなっていますが、地蔵盆のお供えは今まで通り持参しています。職員が出勤時には挨拶等言葉を交わしています。また、認知症相談窓口には地域の方より電話での相談を受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市が実施している認知症カフェに職員を派遣し、認知症の方、認知症の方の家族の相談に応じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施しているが、4月からはコロナ感染予防から実施できていないが、文章で事業内容の報告や電話で話をしている。また、身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会としても位置付け委員との意見交換等をしている	運営推進会議は家族や民生委員、市役所職員、地域包括支援センター担当者の参加を得て、併設する小規模多機能型居宅介護と合同で2か月毎に開催されていましたが、4月より書面開催となり事業所内での生活の様子や面会方法、事故報告等を検討した結果を議事録にして、参加メンバーや家族に持参したり送付し説明を行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの委託事業や、事業所での不安ごとの相談をしたり、市からも相談を受けている	運営推進会議に市職員の出席があり事業所の運営状況を知ってもらい、分らない事等があれば直接出向いたり電話やメールにて気軽に相談や確認をしています。また、地域事業所の質の向上に向けた連絡会は現在開催されていませんが各事業所の管理者や市の担当者と日頃から連絡を取り連携し協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、施設内研修を実施している。ケアの場面を振り返り、自身では身体拘束と気付かず間違ったケアをしていないか確認をする機会をつくっている	身体拘束に関する研修は年4回実施しており日々のケアの中でも振り返り拘束に繋がっていないかを職員間でも確認しています。身体拘束適正化委員会は定期的に開催時され事例などを含めて職員に周知しています。玄関は施錠を行わず、外に行きたい方には職員が付き添い敷地内を散歩するなど気分転換を図り、言葉遣いにも配慮し利用者の行動を止めることなく見守り安全に自由な暮らしができるような対応を心がけています。	

認知症対応型共同生活介護 あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修において虐待についての学習会を実施している。入浴前など、利用者の身体に打撲や内出血が確認された時は、すぐに報告するように徹底している。知らず知らずのうちに不適切なケアをしてしまっていないかチェックするようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を実施して学習している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定までも、訪問をし、家族の不安が軽減できるように話し合う機会を持った。介護保険改定の際、文章を作成し、説明を行った		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1回満足度調査の実施をしている。家族会も実施し、職員と家族で報告会を行なって意見や要望を聞いている	利用者からは関わりの中で希望を聴き支援に繋がっています。家族とは意見を言いやすい関係作りに努め、来訪時や電話、メール直接意見を聞いています。毎年行われる満足度調査の結果を受け契約書等の詳細な部分の再度説明やコロナ禍の中での面会方法や病院受診についての要望があり、毎月のお手紙やメールで様子を知らせるなど出来る事から速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による個人面談で職員の意見や思いを聞く機会を設けている。それぞれの職員が日頃の業務の中で感じた改善点等をミーティングで提案するなどして反映している	毎月行われる会議や申し送り等で職員の意見を聞いています。また会議前には書面での提案や意見があがり都度改善に向けて話し合い取り組んでおり、担当からの提案を受け行事を実施し利用者に楽しんでもらっています。管理者は個別に面接を行い意見を聞きながら働きやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談において、個々の職員の将来目標を把握し、個々の職員が目標達成に向けて仕事ができるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で、また個人面談において、個々のケアにおけるアドバイスを実施している。職員の経験や力量を考慮した上で適当であると思われる研修への参加を進めている		

認知症対応型共同生活介護 あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、他施設との交流がコロナのため中止となっているが、電話などで知りえた情報は職員に情報提供するようにしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々のケアの中で聞いた入居者の言葉を記録に残して職員間で情報共有できるよう努め、入居者の思いを汲み取り、ケアに活かしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の担当職員を決めて家族会や面会など、ご家族とお会いする際には、職員が近況報告や相談など話す機会を確保し関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用の実績がない		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かし本人のできることは積極的にしていただいている。人生の先輩として教えていただくことも多々ある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は、受診介助や外出、行事への参加など積極的に関わってくださっているが、4月からはコロナのため面会中止になっていたが、電話や手紙などのやりとり、家族への入居者のご様子の報告など関係の継続に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通年は地域の行事等に参加し、馴染みの方との交流の機会があるが、今年度はコロナのため行事は中止している。ご家族、親族の方と手紙のやり取り等をされている	高齢で行くことできる馴染みの場所も少なくなっている中、会話の中から聞いた場所に出向いたり家族と一緒に趣味の道具を買いに行く方もいます。また、法人の他の事業所に入居している家族に面に行く機会を増やす支援もしています。現在は友人や家族の面会は中止していますが手紙や電話などのやり取りの支援を行う事でこれまでの関係継続に努めています。	

認知症対応型共同生活介護 あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者相互に理解しあい、関係づくりができています。職員が間に入り関係づくりを支援したり、不快な思いをされることがないように配慮している。普段、他のご入居者と交流が少ない方もいるが、同じ時間を共有する機会が作れている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族の相談に応じている。近況や様子など連絡があることがある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者の言動から思いをくみ取り、ケアに活かさないかという視点を持つことができています。ケースカンファレンスにおいて個々の職員が持っている情報を持ち寄り、共有し、改善に活かそうと努めている	入居前の面談で本人や家族の希望、日常生活状況等を聞き取り、今まで関わっていた事業所等からも情報を得て思いの把握に繋げています。また、家族にも所定の用紙に生活歴や現在の状況を分かる事などを記載してもらっています。入居後は日々の関わりの中で表情や言動を記録に残したり、申し送り等で話し合いを行い分からないことは家族に確認して、思いが把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取り、ご入居者の思いやご入居者の発言などの情報を記録し、共有できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者それぞれのリズムで生活できるよう配慮している。残存能力の活用をさせていただきよう支援しているが、ご入居者のその日、その時の心身の状況を考慮し、臨機応変に対応できるよう心がけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンス前に個々の職員の意見や考え、視点を確認し、それを持ち寄り、計画作成時に反映させている。ご家族からの要望や主治医の意見等も反映できるよう努めている	本人や家族の思い、アセスメントの基に介護計画を作成し、毎月のケース会議でモニタリングを行い3カ月毎に計画見直しています。見直しの際には再アセスメントを行い医師の意見を改めて聞き、家族に面会時にサービス担当者会議を行っています。また職員は毎日のケア記録と計画の実施状況を基に考察と評価を行い計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日、時系列で記録している。特記事項がモニタリング時に見直ししやすいように記録を工夫している。ご入居者の発言等も記録し、情報が共有できるよう努めている		

認知症対応型共同生活介護 あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組めていない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	取り組めていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医は今までと変わらずかかっておられる。主治医には受診の際に報告や相談をして連携を図っている。必要に応じて受診時に同行し、ご本人のご様子等を医師に報告して相談している	入居前のかかりつけ医を全員が継続し受診は家族の協力を得ており書面や口頭で情報提供を行い、家族やかかりつけ医より結果報告を受けています。場合によっては職員が同行する事もあります。また、オンライン診療や往診、緊急時の対応もあり、利用者の状況をかかりつけ医にメールで相談できる体制も整っています。歯科の往診もあり希望者は口腔ケアや治療をうけています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて法人内の他事業所の看護師に協力を依頼し、適切な処置や受診ができるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時、病院へ情報提供をしている。病院の地域連携室との調整を行い、治療が終われば速やかに退院してできるだけ早く元の生活に戻れるようにし、入院による影響を軽減できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についてご家族と話し合いの機会を持ち意向を聞いている。介護と医療が連携してご本人の状態を把握し、適切なケアを提供するとともに、ご家族の思いや希望も叶えられるよう努めている	入居時に利用者が重度化した場合の事業所の対応について説明を行っています。重度化しても馴れ親しんだ職員と環境の中でな生活が続けられる様に支援をしています。まだ看取りの経験はありませんが、利用者の変化に伴いかかりつけ医に早期に相談でき適切な対応に努めており、今後の体制作りや取り組みについては法人内で検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時対応の訓練を実施している。対応マニュアルを定期的に確認し、把握するよう促している		

認知症対応型共同生活介護 あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内では火災、地震、夜間等の場面を想定して訓練を実施しているが、地域との訓練は実施できておらず協力体制が築けているとは言い難い	年に3回夜間を想定し火災と地震を想定した自主訓練を行い、法人内で協力できる事や連絡網を確認しており法人により抜き打ち訓練が2回あります。消防器具の点検や備品の見直し自家発電機の訓練を行っています。備蓄は利用者と職員が3日間過ごす事が出来る量を確保しています。	避難訓練の際には地域の方への協力の声かけや地域の防災訓練に参加する等、地域との協力体制に向けた働きかけをされては如何でしょうか
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の話をする際はイニシャルを使うようにしている。言葉使いは職員間で注意できる関係である。プライバシーに配慮し、職員間では隠語を用いて情報共有するようにしている	入職時に接遇や尊厳、プライバシーに関する研修を行っていますが日々のケアの中でも不適切な対応があれば職員間でも注意をし合えるように取り組んでいます。希望があれば同性介助を行い、排泄の声かけや確認は細心の注意を払っています。現在集合研修が出来ない中、言葉遣いなど意識できるようにチェックシートを使うことも検討しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の自己決定を促し、思いや希望を引き出せるよう努め、それを尊重するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日は外に行きたいという要望があり外出したりしている。居室で過ごすことを好まれる方は居室で過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髪を整え、洋服に食べこぼしなど汚れがあれば随時交換している。入浴後に髪や衣服の乱れがないかを意識している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	回数は少ないが料理を作る日を作ってご入居者の能力を活かしながら協力しあい食事を作る場面がある。食器やテーブルを拭いていただく等、ご入居者と協働できるようにしている	法人の厨房で作られた昼食と夕食を取りに行き盛り付けを事業所で行っています。朝食は事業所で利用者の意見を聞きながら献立を考えて生協で発注し食材が届きます。また、月に1度昼食を作る機会を設け、特に誕生日の方の希望を聞いて反映しています。厨房には献立の希望や嗜好、献立などの要望を伝え献立に反映しており、利用者の食事が楽しみになりように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については、法人内の厨房にて調理をしており栄養管理している。水分は自発的に要求される方が少ないので、意識的に飲水をしていただくようにしている。水分摂取表を作成したりして意識ができるよう工夫をしている		

認知症対応型共同生活介護 あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎回実施している。必要に応じて食後だけでなく、食前にも口腔ケアを実施している。また、必要に応じて訪問歯科にて口腔ケアのアドバイスを受たり、治療を受けていただいている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレまで移動して排泄することが難しくなっても、居室にポータブルトイレを設置してトイレで排泄できるようにしている。ご入居者の排泄チェックをしてパターンを把握し、失敗が減るように定期的な声掛けをしている	排泄の記録を基にパターンを把握し、一人ひとりのタイミングに合わせてトイレに誘導しています。重度の方も出来る限りトイレでの排泄を支援しています。又医師と相談し排便コントロールも行っています。現状維持できている方も多く、退院後も元の状態に戻すよう職員間で話し合いながら支援をしています。更により良い支援を考え排泄ケアやパットの選び方等の勉強会を計画しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足や水分不足は便秘の要因でもあるので、意識的に活動を取り入れたり、水分補給を促している。排便状況を主治医に報告し、薬の調整等をしていただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的なベースはあるが、ご本人にお声かけをして、気分が乗らないときは無理強いをせず、またご本人が入浴したいといわれた時には入浴できるようにしている	入浴は2日に1回体調や希望に合わせて入浴を支援し、湯は毎回入れ替え衛生面にも配慮しています。重度の方には機械浴を使用し、入浴日以外にも清潔に保てるように支援しています。入浴を拒否する方はおらず、コミュニケーションを取りながら個々のペースで入ってもらい、入浴剤の使用や季節のゆず湯を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて、表情等を見て疲れを感じているときなどは、声をかけ休息をしていただいたり、日中に寝すぎて夜間に眠れなくなることがないように配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧表を作成している。また、服薬前にご本人のものであるか、日付、飲む時間に間違いはないか声に出して確認を行い、間違いがないように確認の徹底、周知をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いままで培ってこられた能力を活かし、裁縫や編み物に取り組まれている。定期的な外食の機会を設けたり、誕生日にはご本人のお好きなものを提供できるようにしたりしている		

認知症対応型共同生活介護 あゆみの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻度的にも多くはなく、遠方への外出等ではできていないが、状況に応じて外出ができるよう努めている	現在外出行事等は出来ていない状況ですが、感染対策に留意し事業所裏の農道を少人数で散歩したり、広い敷地内に椅子を出して外気浴やお茶を飲んだり気分転換を図れるアクティビティを考えて実践しています。本来ならば季節感が感じられる行事や外出企画を行い実施出来ていましたが、自粛によるストレスが軽減できる取り組みを行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理しているが、ご本人の希望される嗜好品や必要な日用品などを購入している。ご自分で管理されている方もあり、職員と一っしょに買い物に行き、好きなものをご自分で購入されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親族の方から手紙が届くことがあり、返事の手紙を書かれる方もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁に季節感が出せるように創作壁画を作っている。玄関先に季節の花をボランティアさんが生けてくださっている。頂いた花をご入居者に生けていただき飾ることもある。各居室に温湿度計を設置し、それを見ながら適切な環境になるよう空調の調整等を行っている	共用部分は町家をイメージした造りになっており毎月利用者と一緒に作成した壁飾りを飾っています。照明は落ち着いた雰囲気を保てるように暖色とし日中リビングで過ごす時間の多い利用者にとって居心地の良い環境を作っています。また、定期的な清掃や換気、温湿度に留意し清潔に心がけ感染対策にも留意し利用者の体感を確認しながら室温の調整を行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者それぞれが思い思いの場所で思い思いの過ごし方をされている。気の合う方同士で協力して手作業をされたり、共通の趣味活動をされたりすることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で生活されていた時に使っていた馴染みのものを持ってきていただき使っていた	入居時に本人が今まで使用していたものを持ってきてもらうよう伝え、筆筒や仏壇、鏡台、刺し子等趣味の道具や化粧品等必要な物を持参して家族と相談して配置をしています。ホワイトボードに「今日の言葉や職員へのメッセージ」を書く事を楽しみの一つにしている方もいます。感染対策としての換気や床掃除の回数を増やす等清潔で快適で過ごしやすい居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子を使用されている方でも自走して、ご自分の行きたいところへご自分で行っていただくようお声かけをしている。動線上の移動の妨げとなるものがないか意識するようにしている		